

技術的な社會奉仕

知慧の會に就て

工學博士 岡野昇

鐵道協會の一室に時々知慧の會と言ふ札が掛けられる。名前が如何にも原始的であるが工學博士岡野昇氏を會長として土木機械電氣各専門の人々が技術的の問題ならなんでも無料で知慧を貸すと言ふ會である。(編者)

知慧の會を起したのは私が鐵道省をやめてから一の社會奉仕事業としてをるものです。

最初は方々から問題を持込まれて一時は百件以上にも達しましたが、其内で僅かに五件位しか有效なものがない、九十餘のものは何れも物にならぬもので、考案者には氣の毒であるが何事も利用の途が立たない。然し考案した本人になるこ一生懸命に苦心して相當の犠牲も拂つてやつた人もあるから、我々が之を否定するこ非常に立腹して怒つて行くこ云ふ人もあつた、此等の人が我々の事業を逆宣傳した人もあつた。其上我々としても知慧の會を餘り社會に宣傳しないものだから、今では世間から大分忘れられた次第です。

或機械を考案した人が、其案を利用されるのではないかと言ふ様な疑を以て來る人もある、又中には地方の鐵道計畫などで相談に來て種々依頼されるから、測量から設計迄してやつてそれつきり其後何も音沙汰ないものなごもある。東京へ來たら一度は禮には來るだらうと思つて居るが、顔も出さない、然し奉仕事業と言ふものには此の位は當然かも知れません。然し知慧の會は今後も絶対に報酬を取らない事、見込のあるものは充分に援助して其成功を圖り度いと思つて居ります。

(以上)

知慧の會の目的と近況

知慧の會は會社工場の能率増進、發明考案

の補助、批評、大小機械、器具並に諸材料の調査、鐵道の計畫、土木事業、高級技術者の選定等を爲すこを一般の委囑に應需する會にして其の事務所は丸之内帝國鐵道協會内に置き會員五十餘名の博士、學士又は學識經驗を有する者より成る團體として元來社會奉仕の爲めに其の智識、經驗を無料提供するを本旨とし、常務員は毎週月曜日に事務所に會合し諸般の事を審議處理す、審議の結果提供する所の報告に對しては別に報酬を要求せず、且つ本會は委囑の問件に付て絶対秘密を嚴守して提案者の信用を確保す。

問件は發明考案の方面頗る多く、現下の實情は發明者としては無限の智囊を揮ひ正に其の目的が具體化に垂んこするに方り補足の智識を他に求めむか直ちに考案を横取さるゝものあり、狡猾惡むべしこ雖も詮術なく、折角資財を蕩盡しながら遂に救ふべからざるに至るが如き實例尠からざるを以て本會は率先して是等の考案者を指導補掖して其の成功を得せしむるを以て事業の信條とせり。從來本會が審議したるものゝ中には、飛行機墜落防止の自動調節機、キャツシユレジスター、自動切符發賣機の如き業に江湖に著はれたるものあり、又審議を了せしも未だ發表するに至らざるものも少なからず。

前東京市長永田秀次郎氏が大正十二年關東大震火災歿死者の慰靈碑を高野山に建設し併せて歿死者名簿を埋藏して之を一萬年後に保存せしめむこするに付其容器並に保存方法は本會に委囑され其の考案に依り實行しつゝあり。尙ほ問件は毎週月曜日に事務所(帝國鐵道協會内)に於て受付く。